

「県庁舎跡地整備基本構想（素案）」に対する
パブリックコメントの募集結果について

「県庁舎跡地整備基本構想（素案）」について、パブリックコメントを実施しましたところ、貴重なご意見をいただき厚くお礼申し上げます。
お寄せいただいたご意見に対する県の考え方をまとめましたので公表します。

1. 募集期間

令和3年9月22日（水曜日）から令和3年10月18日（月曜日）午後1時まで

2. 募集方法

電子申請、郵送、ファクシミリ

3. 閲覧方法

県ホームページに掲載

県庁舎跡地活用室、県政情報コーナー（県民センター内）

各振興局行政資料コーナー（長崎振興局を除く）

4. ご意見件数

98件（49個人、2団体） ※提出された意見を県において適宜区分

5. ご意見の反映状況

対応区分	対応内容	件数
A	素案に修正を加え反映させるもの	6
B	素案の考え方や姿勢に合致し、今後、具体的な機能等を検討する中で、詳細等を精査していくもの	37
C	反映の可否を含め、今後検討していくもの	41
D	反映が困難なもの	8
E	その他	6
合計		98

6. 提出されたご意見の要旨及び県の考え方 ※基本構想（素案）の項目毎に整理

<構想全般（4件）>

No.	区分	意見要旨	意見に対する考え方
1	A	<p>・素案全体については、よく議論された上で検討され、基本理念、機能や配置の考え方、事業の進め方などが整理されており、歴史があり、長崎の街の中でも重要な場所にある県有地の活用について、意欲的な取り組みが盛り込まれていると思います。</p> <p>・先行的な賑わいづくりにおける留意点等については、この場所を使いこなすための経験を蓄積し、使い方のセンスを磨き、プレーヤーとその母体となるこの場所のファンを育むために、重要な視点が十分に盛り込まれていると思います。実証実験をはじめとする先行的な賑わいづくりの取り組みについては、是非このままの形で、広く県民に周知し、参画を促しながら進めていっていただきたいと思います。</p> <p>・一つのご提案として、これらの個々のプレーヤー（やその集まりであるグループ）を対象とした取り組みに加えて、企業や大学、既存の団体などの組織体についても、個々のプレーヤーへの「支援」や「連携」にとどまらず、「主体的な取り組み」の機会を設けてみてはいかがでしょうか。県において、この場所に興味や関心を持ち、可能性を感じる県内外の企業や大学等に働きかけて、知的、人的、技術的資源を出し合って挑戦的な取り組みを展開してもらえるような「場づくり」をして、その組織体として、「この場所の『場所性』や『可能性』をどう考えるか」「それをどう『感じ』、『楽しんで』もらうか」「この場所を訪れる人に何を『考えて』ほしいか」「どこの場所からのような『新しい価値』を生み出したいか」を表現してもらい、シンポジウムや社会実験等の「テーマ性を持った取り組み」を（できれば継続的に）開催していくと、将来の基本理念の具現化や県民の期待感の醸成、これらの組織体の継続的な参画などにも繋がっていくのではないかと思います。</p> <p>企業や大学等に対する地道で継続的な働きかけが必要となりますが、産業振興や雇用の創出、</p>	<p>先行的な賑わいづくりを含め、今後の持続的な賑わいにつなげていくため、個々のプレーヤーはもとより、企業や大学など幅広い個人・団体等の主体的な取組を促すことについて、基本構想の中に、より分かりやすく盛り込むことといたします。また、いただいたご意見を参考に、持続的な賑わいや新たな価値創造に向けた具体的な取組等についても、今後、さらに精査してまいります。</p>

		<p>交流・関係人口の拡大といった効果も期待できるかと思っておりますので、引き続きのご尽力を期待しております。</p>	
2	A	<p>(県庁舎跡地とその周囲の基本認識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県庁舎跡地は長崎港開港以降、海外と国内の拠点として歴史を積層させた稀有な場所である。 ・県庁舎跡地が国道34号線(市役所通り)の起点となっており、江戸時代は長崎街道の起点として文化発信の起点であった。 ・県庁舎跡地は「眼下に出島を臨む岬の突端」であり、その先の空、海は世界につながる。日本国の突端。世界のカルチャーと交信するアンテナ。 ・長崎市役所の移転が予定され、市役所通りの価値が大きく変化をし、同時にその周辺の交通に大きな変化が予想される。 <p>(市役所通りを含めた【万才町・興善町】エリアの一体的なランドデザインの必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県庁が臨海部へ移転し、長崎市役所が長崎市公会堂跡地へ移転が予定されていることから、市役所通りの持つ価値に変化が求められている。 ・県庁舎跡地の敷地だけでなく市役所通りをも含めた面としてのエリアの再定義を行い、「長崎の日常を価値としたエリアビジョン」を策定し、一体的にブランディングを行う必要がある。 ・ランドデザインを策定し、県庁舎跡地だけではなく、尾根筋の新たな価値を創造する必要がある。 	<p>利活用の基本的考え方として、100年に一度とも言えるべき変革の時期を迎えるにあたり、エリア全体の人の流れやまちづくりの動き、さらには産業構造の変化等を踏まえ、この地に求められる機能や利活用のあり方を整理することとしております。いただいたご意見を踏まえ、エリアの一体的なブランディングにも留意しながら利活用を図っていくとの趣旨を、基本構想に盛り込むことといたします。</p>
3	E	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁舎跡地については、ここでしかない事象として、全体を遺跡と捉え、憶測の余地のない再建等により遺跡保護等を行うこととし、遺跡たる具象と異なる機能と造形、建築物は存在すべきではない。 ・そのため、県庁舎跡地に整備を予定している、情報発信機能や交流支援機能、交通結節機能等については、県警本部跡地や近隣市街地において整備すべき。 <p>※ご意見の詳細等については、別添1に掲載</p>	<p>基本構想の素案においては、この地の様々な歴史をしっかりと伝えながら、隣接する県警本部跡地を含め、賑わいと交流に資する機能を効果的に配置することとしております。現存する石垣等の活かし方や、遺構等にも配慮した建物等の整備や配置、隣接する出島等との景観やデザインの調和などにも留意しながら検討を重ねてまいります。</p>

4	C	<p>・田上富久長崎市長は、小島養生所等遺跡の完全保存を求める市民の願いに背を向け、可能であったにもかかわらず完全保存(現状保存)を行わず、「記録保存」でお茶を濁してしまいました。県庁舎跡地は、岬の教会、長崎奉行所、海軍伝習所、明治期県庁舎と幾重にも年代別の遺構が積み上がっています。全てを重層的に保存するような工夫が求められます。県庁舎跡地は長崎市内では「最後の遺跡」と言われています。今後、長崎のアイデンティティーの原点を維持し精神文化を引き継いで、長崎らしい未来を創造するためにも県庁舎跡地の保存で失敗は許されません。</p> <p>・私は、県庁舎跡地「広場」として整備することに基本的には賛成です。ただし、次のことを要望します。</p> <p>(1)遺構をいっさい壊さず、保存してください。</p> <p>(2)「岬の教会」時代の海岸線を確定させ、現地で見える化をしてください。</p>	<p>現存する石垣や埋蔵文化財の状況に配慮した建物等の整備・配置とすることとしております。また、石垣などにより、地形的にこの地が岬の先端であったことを彷彿させるなど、ストーリー性を持った利活用についても検討していくこととしております。専門家等のご意見等を踏まえながら、どのような対応が考えられるか検討を深めてまいります。</p>
---	---	---	--

< 4.基本理念 (5件) >

No.	区分	意見要旨	意見に対する考え方
5	A	<p>・「若い人達をはじめ」となっているが、関係人口の拡大、将来の移住定住の観点から、県内外の子どもや子育て世帯の活用も促進されるような工夫や運用をお願いしたい。</p> <p>・県外からは、小中高の修学旅行の市内周遊拠点としての活用も想定され、子どもの記憶に残れば、関係人口として、将来の移住につながることも期待できる。</p> <p>・県内他市町からは、修学旅行のほか、文化体育関係の各種県内大会の際の活用も想定され、長崎市の魅力が記憶に残れば、将来、進学や就職で長崎市内も選択肢に入るなど、県庁所在地のダム機能の向上も期待できる。</p> <p>・市内からは、小中高の課外学習や、市内中心部の子育て世帯などに多く活用してもらい、市内の魅力が記憶に残れば、定住促進や一度県外に出られた方のUターンなど、人口減少の抑制につながることも期待できる。</p>	<p>基本構想素案において、様々な歴史を体感したりすること等ができ、子ども達の学びの場としても有効であると考えられることから、修学旅行など、学習面で効果的な活用が図られるような機能等について工夫することとしております。ご意見にあるような、県の関係人口の拡大や、将来の移住定住につなげるとの観点が不十分ですので、基本構想の考え方の中に盛り込むこととし、いただいたご意見を参考に、具体的な活用についても、今後、さらに精査してまいります。</p>

6	A	<p>産業の少ない長崎において観光産業は大切な産業の一つです。小樽運河も金沢、ひがし茶屋街も熊本城彩苑も、元々そこにあったものではありません。それぞれの街の人たちが観光地として作り上げたものです。あったものを見せるだけでなく、観光地として整備してきた施設なのです。県内の伝統芸能大会を行うとか、県内の物産を紹介するイベントを開くとか、長崎のキリスト教関連遺産の紹介をすとか決して長崎市内の施設でなく、オール長崎で取り組むべき課題だと思います。</p> <p>※ご意見の詳細等については、別添2に掲載</p>	<p>本県の魅力を伝える情報発信のあり方については、まちなかへの周遊や県内各地への周遊につなげるため、県内各地域の歴史や文化等を広く紹介することとしております。いただいたご意見を踏まえ、基本構想の中に、県全体の活性化につながる情報発信等に取り組むとの趣旨をより分かりやすく盛り込むことといたします。</p>
7	B	<p>石垣をはじめ土地の形状、出島との位置関係を考えるとき、日本でも一級の観光地になれる要素は十分にあると思われまます。</p> <p>※ご意見の詳細等については、別添2に掲載</p>	<p>現存する石垣等を活かしつつ、出島との連携等にも留意しながら、賑わいを創出する広場や、この地の歴史や世界遺産など本県の魅力を発信する情報発信機能等を整備し、賑わいの創出や交流拡大につなげていきたいと考えております。今後、具体的な機能等について精査してまいります。</p>
8	B	<p>・長崎文化の形成や県庁跡地と出島の相関関係については、少なくとも跡地活用を図る立場にあるものは森崎の本質を理解する必要があると思われる。</p> <p>※ご意見の詳細等については、別添3に掲載</p>	<p>この地の様々な歴史の積み重ねをしっかりと伝え、この地に対する人々の思いを大切にしたいと利活用を図っていく必要があると考えております。今後、具体的な機能等について精査してまいります。</p>
9	B	<p>長崎県庁舎跡地は長崎発祥の礎となった場所であり、様々な歴史の変遷の中で、長崎のまちの中心としての役割を果たしてきた歴史的に重要な土地であるとともに、まちの中心に位置する大変貴重な県民の財産であることは、論を待たないところである。そのような中、地元自治会である江戸町自治会においては、これまでの県庁歴史のなかにおいて、数々の支援協力を行ってきたと自負するものである。ついては、これらを踏まえ、基本理念に基づき、県庁舎が歩んできたこの地の歴史、江戸町自治会との歴史を活かした基本構想の構築をお願いする。</p>	<p>利活用策の検討や具体的な賑わいづくりの推進にあたり、地域の皆様に多大なるご支援やご協力をいただいておりますことに感謝しております。県庁舎跡地の様々な歴史の積み重ねをしっかりと伝えらるとともに、この地に対する人々の思いを大切にしたいと利活用を図りたいと考えております。今後も、地域の皆様のご協力をいただきながら、具体的な機能等について精査してまいります。</p>

< 5.機能や配置の考え方 (17件) >

No.	区分	意見要旨	意見に対する考え方
10	C	<p>今回の「県庁跡地整備基本構想(素案)」は、「具体的な個別施設」までは踏み込んでいないため、総論に対する意見として提出するが、今後の、より具体化した計画案を策定した段階で、「県庁跡地遺構を考える会」からの「急いで間違えたものを作ってほしくない」という要望も踏まえ、再度パブリックコメントを求めることは必須であると考えます。またこの場合、市内に点在する長崎市等が所有、管理する観光戦略拠点施設の整備・見直し計画等も考慮したうえで行うことが望ましい。</p>	<p>具体的な施設の整備等については、基本構想素案の「8. 今後の進め方」に示しているとおり、まず広場等を先行して整備し、オープンスペースとして暫定的に使用する中で、利用状況等を検証し、その後の整備を検討するなど、段階的な整備を推進することとしております。具体の整備内容等の整理については、県民の皆様幅広くご意見等を伺いながら検討してまいります。</p>
11	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな、安らげる、家族連れが遊びに行きやすい場所にしてほしい。 ・県内、県外のあらゆる人が、その時々で行きたくなるような施設、わくわくする仕掛けをつくってほしいです。 	<p>家族連れなどにも配慮しながら、県民市民や観光客等で賑わう空間を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
12	B	<p>新たに事業をはじめなどのチャレンジをいろいろな形で応援する場所にしてほしい。</p>	<p>オープンイノベーションの拠点などにより、起業や創業を目指す若者等を支援するとともに、若者や女性などが気軽に集い、共に学び、新たな交流につなげるなど、本県の将来を支える若い世代の人達に必要な空間を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
13	B	<p>人や情報など長崎と都会とをつないでやるような機能があるとよいと思います。</p>	<p>県警本部跡地におけるオープンイノベーションをはじめ様々な交流を効果的に推進するため、民間のノウハウ等を活用し、県内や都市部などの交流拠点をつなぐような機能を設置したいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
14	B	<p>車椅子でも気軽に訪れることができるよう、バリアフリーを徹底してほしい。</p>	<p>バリアフリー化は、県庁舎跡地の利活用において重要な視点であることから、敷地の高低差の対応などにおいて留意することとしております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>

15	B	石垣下は観光客が訪れるようなコンテンツを充実させてほしい。	石垣下の敷地については、出島等との景観や調和に配慮しながら、本県の魅力等の情報発信機能、バスベイや待合所などを設置し、人々が行き交う賑わいの空間を整備することを検討しております。今後、具体的な機能や一体的活用等について精査してまいります。
16	B	物産展など県内各地の特産品を紹介できる場を作ってほしい。	物産展など様々なイベント等に使える広場や、食や物産など本県の魅力を伝える情報発信機能を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。
17	B	長崎市の中心は子供が自由に遊んだり、身体を動かす所が無いから、小さい子供から小学生高学年まで楽しめる所が欲しいです。キドキドみたいに有料で高いお金を払わずに行ける所があったらよいですね。	小さい子供をはじめ、家族連れなどにも配慮しながら、広場や交流できる空間を整備していきたいと考えております。民間等のノウハウも参考にしながら、今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。
18	B	やっぱり子供達が雨降りでも身体を鍛えたり遊ぶ場所、できれば無料の場所がほしい。	家族連れなどに配慮した広場や空間を整備していきたいと考えております。民間等のノウハウも参考にしながら、今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。
19	B	幼児から高校生くらいまでの子供達が自由に遊べ、体を動かすことができる場所にしてほしい。	家族連れなどに配慮した、子供や学生が気軽に集える空間を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。
20	B	基本理念にあるように賑わいと交流による新たな価値の創造は大切な視点であると思うので、多くの人が集うような機能整備をお願いしたい。	この地の歴史や果たしてきた役割を踏まえ、県内外から多くの人々が集い、交流し、本県の将来の発展に資する新たな価値を創造するような場を整備していきたいと考えております。引き続き、効果的な機能等の整備について検討を深めてまいります。
21	B	若い人達がおもしろい場所と思えるような場所にしてほしい。	若者や女性などが気軽に集い、共に学び、新たな交流につなげるなど、本県の将来を支える若い世代の人達に必要とされる空間を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。

22	B	観光のために利用するだけでなく長崎の将来に役立つようなシンボルとなる場所にしてほしいです。	この地は、海外等との交流により、新たな価値を創造・発信してきた場所であり、これまで果たしてきた役割を受け継ぎ、多様な交流により、本県の将来の発展に資するような新たな価値を創造する場所にしていきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、交流支援機能の詳細等を精査してまいります。
23	C	子供を預けられる託児所のような機能があると便利だと思う。	家族連れにも配慮した機能や設備について留意していきたいと考えており、どのような対応が考えられるか、今後、さらに検討を重ねてまいります。
24	B	素案の「この土地の歴史」に記載があるように、この土地は重層な歴史を保有しており、ある特定の時代にスポットをあてたハコモノの整備は困難と考えられるため、様々な歴史を発信する機能をもたせるべきと思う。	重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建物等を復元することは難しいと考えられることから、先端技術等を活用し、効果的に歴史を体感してもらえるような情報発信機能を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。
25	B	世界遺産である原城跡をPRして南島原市への訪問客の増加につなげてほしい。	この地の様々な歴史や世界遺産など本県の魅力を伝える情報発信機能を整備し、まちなかへの周遊や県内各地への周遊につなげていきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。
26	C	石垣上には長崎奉行所を復元するなど、対面の出島と調和した建物を整備してほしい。	重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建築物等の復元は難しいと考えております。低層の建物とするなど、出島等との景観との調和等に配慮した建築物の整備のあり方について引き続き検討してまいります。

< 6.具体的な機能や配置（67件） >

No.	区分	意見要旨	意見に対する考え方
27	B	<p>・かつて海外から持ち込まれた最先端の技術が、この地から日本国内に広がっていった歴史性に合致し、この機能により新しいアイデアがこの地で生まれ、国内・海外に広まっていく。</p> <p>・住民や留学生を含めた学生が、それぞれ地域課題を持ち寄り、企業が持っているソリューションとのマッチングにより、課題を解決し地方創生の一翼を担う。</p> <p>・これらに集まる企業や行政、学生達による賑わいの創出。</p> <p>以上のような効果が望まれ、ぜひとも付加してほしい機能と考える。</p>	<p>海外等との交流により、新たな価値を創造・発信し、我が国の近代化に貢献するなど、この地の果たしてきた役割を受け継ぎ、これからも、多様な人材や企業等の交流を促し、本県の将来の発展に資するような、新たな価値を創造する場を作り上げたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
28	C	<p>交流支援事業については、内容が未整理のまま盛り込みすぎと思われる。</p> <p>県警本部跡地の活用も含め、周辺にある「長崎県交流センター」「長崎出島インキュベーターD-FLAG」「長崎市出島メッセ長崎」等との役割分担や連携をまず明らかにすることが重要で、このままでは「また同じような施設を乱立させる」との謗りを免れない。個人的には、この狭いスペースに詰め込みすぎで、仮に盛り込む場合にも県警本部跡地に一括すべきである。</p>	<p>交流支援機能については、県が設置するスタートアップ交流拠点（CO-DEJIMA）など既存施設の機能集約を含め検討を行うこととしております。民間の交流拠点等との機能分担や連携に留意しながら、コーディネーターの配置など運営体制面も含め、多様な交流を促進し、本県の将来の発展に資するような価値を創造する交流拠点の整備に向け、さらに検討を深めてまいります。</p>
29	C	<p>県警本部跡地について、オープンイノベーション施設を前提とした提案になっているが、まず、「既存施設の機能集約と連携手法」を検討することが先決で、それが不明なまま提案するのは時期尚早であると考えます。企業創出は重要なテーマであることは疑いないが、施設優先になりすぎて結局これまで成果を出していないといえよう。まず、成功している事例を調査し、既存施設の統廃合と連携手法を把握したうえで実施すべきである。場合によっては、成果が危ぶまれるイノベーション施設よりも、将来を見越して「外国人ツーリスト向けの安めの宿泊施設」として民間委託した方が効果的ではないかと思える。</p>	<p>県警本部跡地におけるオープンイノベーションなどを推進するための機能については、県が設置するスタートアップ交流拠点（CO-DEJIMA）など既存施設の機能集約を含め検討を行うこととしております。都市部の成功事例なども参考にしながら、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>

30	D	<ul style="list-style-type: none"> ・県警本部跡地について、リモートワークの良さを体験した人にとって中途半端なシェアオフィスには魅力を感じない。 ・市役所から旧県庁まではビジネス街であったが、今は、マンション街であるように、既に長崎中心部のビジネス街としての魅力は低下している。さしたる広さもないので、ここは県庁跡地と地下で結んだリッチ層向けの宿泊施設にすべき。 	<p>県警本部跡地については、シェアオフィスなどの設備にとどまらず、企業や大学等のニーズやシーズをマッチングしたり、都市部の交流拠点等とつなぐなど、運営体制をしっかりと備えた、オープンイノベーション拠点を整備していきたいと考えております。</p>
31	A	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害や視覚障害など、障害を持った方への合理的配慮が必要。例えば、使いやすい広さを確保したトイレ、十分な広さの休憩スペース、ベンチ等の設置、必要な幅のスロープ、エレベーター等の設置、パーキングパーミットの駐車場の確保、介助タクシー等の駐車スペース（ロータリー）の設置など、観光県として、障害を持った方々が「最も観光に訪れやすい県」と思ってもらえるような整備、仕掛けを真剣に考えてほしい。他県にもバリアフリーなどは当然にあるが、長崎県は全国一素晴らしいと思っただけのようにしていただきたい。 ・この取り組みを長崎県全体に波及させることで、全国の障害者の方々やその家族、介助者等の多くの観光客を県内に誘致できると考える。 	<p>障害を持った方への配慮については、石垣上と下をつなぐ階段等の整備において、バリアフリーやユニバーサルデザインにも留意することとしております。いただいたご意見のとおり、整備する機能等の検討にあたり幅広く考慮していく必要がありますので、基本構想の中に、全体として、バリアフリー等の視点を持って機能等のあり方を検討していくとの考え方を盛り込み、今後、詳細についてさらに精査してまいります。</p>
32	B	<p>石垣上と出島との結節点で賑わい創出空間としての活用には賛成で、建物は低層にしてほしい。なお、上部と下部を結ぶ「石垣部」については、「見上げる」唯一場所であることから、単に「保存活用」ではなく、創作であろう「階段部」の有り方（利用方法）、意匠も含め十分に考える必要が有ろう。</p> <p>※具体例については、別添4に掲載</p>	<p>石垣下の敷地は、出島と連携した活用等にも留意しながら、人々が行き交う賑わいの空間にするとともに、出島表門橋等とのデザインにも留意し、石垣上と下をつなぐ階段等を整備したいと考えております。今後、具体的な機能やデザイン等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
33	C	<p>長崎市内は慢性的に駐車場が不足しており、観光拠点となりうる県庁跡地に駐車場を整備することは一考の余地があると思われる。</p>	<p>駐車場については、広場等の一部を使用した必要台数の確保などを検討しており、今後、さらに検討を重ね、最終的な方向性を整理してまいります。</p>

34	E	<p>(“長崎の暮らしを文化のエスプリを感じるエリア”としての県庁舎跡地と市役所通り界限)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、市役所が移転することで市役所通りの交通が変化し、同時に通りの様相が変化することが予想される。 ・市役所通り、また旧長崎街道の通りとしての価値から、これからの新たな長崎の価値をリブランディングする意味でも、市役所通りの車線を減少させて歩行空間を広げる改修を提案する。 ・通り沿いにはマンションの建設も予想されるが、路面店や2階までを商業利用するルールの策定や沿道の整備を行うことで市役所通りから県庁舎跡地にかけてのエリアが日常の場として生まれ変わらせる計画とする。 	<p>利活用にあたっては、周辺エリアの今後の開発との連動など、まちづくりの観点や広域的な視点も持って取り組むこととしております。まちづくりの動きについても、長崎市や国などと連携を図ってまいります。</p>
35	C	<p>旧第三別館の改修後の施設内に、周辺自治会の集会施設（会議室）等のスペース確保をお願いします。</p>	<p>旧第三別館については、利活用ニーズの把握や耐震性を確保するための改修方法等の検証などについて整理を進めております。今後、建物の詳細に状況調査の実施や、跡地利活用全体における機能分担の整理など、さらに検討を重ね、最終的な方向性を整理してまいります。</p>
36	C	<ul style="list-style-type: none"> ・出島と一体化、「長崎の港（鶴の港）を眺望できるタワー」 ・跡地活用と「出島」一体化には、長崎に港「鶴の港」を遠望できるタワーが何よりも大事なことです。 <p>※ご意見の詳細等については、別添5に掲載</p>	<p>出島を見渡せるロケーションなどを活かした機能整備を行っていきたいと考えておりますが、ご提案にあるタワーのような施設は想定しておりません。眺望面にも留意した、この地の魅力を感じていただけるような工夫等について、引き続き検討してまいります。</p>
37	D	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁跡地の本館跡から新大工の玉屋（跡の建物）の屋上や風頭山、グラバー園、鍋冠山を通過って県庁跡地まで戻るといったルートのロープウェーを設置してほしい。 ・古河町に中継地点を建てて、そこから風頭山まで登ってほしい。 ・稲佐山だけではなく彦山や金比羅山にもロープウェーができればいい。 	<p>観光客等の利便性の向上を図ることは重要な視点であると考えておりますが、ロープウェーの設置までは想定しておりません。交通結節機能として、バスベイや待合者などの設置や運行ルート等について、引き続き交通事業者等と検討を重ねてまいります。</p>

38	C	<ul style="list-style-type: none"> ・丘台を活かし、誰がみてもきれいで光り輝く建物（タワー）の建設を提案。34号線の一本道からきれいに見え、先進的で高く、スタイリッシュなデザインとし、県民が他県民に観光スポットとして自慢できる場所とする。 ・タワーには簡易的な展望台を作ってもよい。 ・イベントごとにタワーのカラーを変えるのもよい。（クリスマス時期は34号線を白のイルミでタワーまで導く） ・仮に電波塔にするのであれば、これから5G、6Gとなる世の中に対応できる未来をみすえ、長崎市をIoTの町とする。 	<p>出島を見渡せるロケーションなどを活かした機能整備を行っていきたいと考えておりますが、ご提案にあるタワーのような施設は想定しておりません。眺望面にも留意した、この地の魅力を感じていただけるような工夫等について、引き続き検討してまいります。</p>
39	C	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺には、高層マンションを建築し、山間部に住む住民を平地へと導く。若い経済人はそういうところに住みたがるが、長崎には魅力的な場所が少ないため、県外に出ていく。ここに住んでると自慢できる場所が少ない。 ・博物館等の地味な建物だと、若者はよりつかない。またか、長崎はこれだからセンスがないといわれる。まず、見た目から入ることはとても重要だと考える。県外へ出て行ってしまいう若者を引き留め、Uターンしてくれる若者がいなければ、これかの長崎もそれこそ栄えることができない。 	<p>若い人達などが気軽に集い、学び、新たな交流につなげたり、様々な魅力に触れることができる、長崎の将来を支える若い世代の人達などに必要とされる空間となるため、どのような工夫等が考えられるか、交流支援機能の整備等の中で検討してまいります。</p>
40	C	<p>近くに美術館はあるので、博物館とか小さいコンサートホールがほしい。</p>	<p>博物館やコンサートホールについては、長崎歴史文化博物館などの既存施設等もあることから、県庁舎跡地に整備する施設としては想定しておりません。交流支援機能の1つとして、映像設備や通信機能等を備えたプレゼンテーションスペース等を設置するなど、様々な発表、表現の場として活用いただけるよう検討してまいります。</p>
41	D	<p>長崎県は県庁所在地に「武道館」のない全国唯一の県と聞きます。県内各所から武道館建設検討の意見を全く聞かないのは悲しいです。民間企業によるサッカー場、体育館等建設は進められていくのですが、新たに「武道館」を建設することによる集客効果、経済効果はとて大きい間違いありません。ぜひご検討ください！</p>	<p>様々な催しやイベント等に利用できる広場やスペースを整備していきたいと考えておりますが、武道館などに特化することは想定しておりません。</p>

42	C	<p>・長崎市出身の文学者の資料だけでなく、長崎市に係る人物が登場する作品や、長崎が舞台の作品、あるいは映画やコミックなども網羅。さらに音楽分野まで幅広い資料を展示、閲覧、貸し出しから購買までできるような施設ができれば利用する人は多いはず。</p> <p>・県庁跡地からは石垣遺構や花十字紋瓦の破片も出土しました。そういう場所に人々が集い、学び、交流できるような文学館あるいは文化の館を是非創設してください。昔も今も、長崎は文化の発信地であってほしいと切望します。</p>	<p>文学館的な施設については、近接地に長崎市立図書館、長崎歴史文化博物館及び長崎県美術館などの施設が設置されていることもあり、県庁舎跡地に整備する機能としては想定していません。この地の様々な歴史や世界遺産をはじめとする本県の魅力を伝えるための情報発信機能や、多様な人材や文化、知識等に接することができる交流支援機能等について検討を重ねてまいります。</p>
43	C	<p>歴史的な建物がどんどん消えてゆく中、観光地「長崎」の新しいシンボルが必要だと思います。安藤忠雄さんのような世界的に有名な建築家にシンプルだけど光を大切に「岬の教会」を作ってもらうなど、世界中の人たちが一度は見てみたいと思うような建物がいいと思います。</p>	<p>重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建築物等を復元することは難しいと考えております。様々なデザインの専門家からアドバイス等をいただきながら、質の高いデザイン等を備えた空間の整備を目指してまいります。</p>
44	D	<p>動植物園。出来ればコアアラを飼って、ユーカリを育てて欲しい。</p>	<p>広場など様々なイベントや催しで利用できる空間を整備していきたいと考えておりますが、ご提案のあった動植物園のような機能は想定しておりません。</p>
45	D	<p>県立長崎芸術大学（仮称）の設置。</p>	<p>海外を含め、多様な人材や文化、知識、技術等に接することができる交流支援機能を設置したいと考えておりますが、大学等の設置は想定しておりません。</p>
46	E	<p>広場の周囲は緑で埋め尽くして、できれば市立図書館や市役所付近まで道路の植え込みも植物できれいに散策できるようにしてほしい。</p>	<p>広場に芝生や樹木を植える等により、気軽にくつろげる空間を演出するなど、今後の利活用にあたっては、周辺地域との景観の調和などにも留意することとしており、長崎市などと連携を図ってまいります。</p>
47	E	<p>敷地の高低差を活かした施設の配置という考え方は、建物の見た目の高さが緩和され広場や周辺に圧迫感を与えないので、いいアイデアだと思います。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、引き続き、景観やデザインなどにも配慮しながら、基本構想に基づき、具体的な機能等を検討してまいります。</p>

48	E	<p>江戸町公園については、これまでも「くんち」前夜祭等、イベント開催場所として利用されるなど、地元住民はもちろんのこと、市民にとっては欠くべからざる場所であり、今後も、憩いの場として、その場所の確保をお願いする。</p>	<p>江戸町公園は長崎市の所管となります。県庁舎跡地に隣接する江戸町公園を含めた一体的かつ効果的な活用が図られるよう、長崎市とも連携しながら取り組んでまいります。</p>
49	E	<p>(県警本部跡地)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立体駐車場、起業家サポート施設、DFC（免税店）をたてる。 <p>(石垣上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12時の鐘復活、岬の公園を作る（岬の教会がなくなったので）、おくんちの際に踊り場として提供、縁結びスポット、出島と一緒に総合観光所（パブリックビューイングの活用）、いろんな観光スポットへ向かうための観光案内所拠点（ランドオペレート）、ラウンドワン、長崎スカイタワー（333メートル、中層階に商業施設、上層を観光地（デートスポット）、スーパー銭湯やニンテンドーなどの娯楽施設を）、大型ビジョン、水族館。 <p>(石垣下)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧第三別館案内所（内装をし直す）、イベントの際に控室、石垣にプロジェクションマッピング、ラウンドワン。 <p>(全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出島から県警本部までをエスカレーターでつなぐ。 ・石垣上から石垣下までをローションスライダーで結び石垣下に健康ランドを。 	<p>この地の歴史を活かし、本県の将来に資する新たな賑わいや交流拡大につながるような利活用を図ってまいりたいと考えております。いただいたご意見等の中には、歴史を活かした利活用や商業施設の整備など様々なご提案が盛り込まれておりますので、利活用のコンセプトに合致する要素をどのような形で連携させることができるかなど検討を重ねてまいります。</p>
50	C	<p>旧第三別館の保存に関して、原爆を耐え抜いた貴重な建築物であり、長崎市内でもレトロな外観、内観を残すものとして、是非、建物は改修した上で保存、利活用する方向で検討して頂きたい。最終的に取り壊して撤去などにならないようお願いいたします。また、夜間の建物周辺は暗いため、出島周辺のライトアップと一体的に繋がりをもたせて、街頭などで明るくしていただくと安心です。</p>	<p>旧第三別館については、被爆遺構である一方で、耐震性などの課題もあることから、今後、建物のさらに詳細な状況を把握し、今回いただいたご意見のほか、安全性や耐久性、利活用ニーズや今後の跡地活用全体における機能分担の整理などを踏まえ、最終的な方向性を整理してまいります。</p>

51	C	<p>旧第三別館のような味のある建物はお金がかかっても残す価値があると思います。何かに挑戦しようとしている若い人や県内の個性的なお店に低価格で貸して、人の集まる場所にしてほしいです。</p>	<p>旧第三別館については、大正時代に建てられた歴史ある建物である一方で、耐震性などの課題もあることから、今後、建物のさらに詳細な状況を把握し、コスト面をはじめ、安全性や耐久性、利活用ニーズや今後の跡地活用全体における機能分担の整理などを踏まえ、最終的な方向性を整理してまいります。</p>
52	C	<p>県庁第三別館については、あの優秀な長崎県庁設計部が大正2年に建てた残り少ない建築物で残すべき資産です。 ※ご意見の詳細等については、別添2に掲載</p>	<p>旧第三別館については、歴史ある建物である一方で、耐震性などの課題もあることから、今後、建物のさらに詳細な状況を把握し、安全性や耐久性、利活用ニーズや今後の跡地活用全体における機能分担の整理などを踏まえ、最終的な方向性を整理してまいります。</p>
53	C	<p>旧第三別館の利活用について、この施設は、長崎市内で少なくなった被爆遺構である。もう二度と生み出すことが出来ない、非常に貴重な遺産である。故に、破壊することなく、残して活用することは必須である。将来の人のために。そこで、「まちなか等への回遊や県内周遊を促す起点となるなど、これからも「賑わい」をもたらす場所」にする事も考慮して県庁跡地にできる広場等に集った長崎観光旅行者が、原爆遺構に触れて平和への想いを深める施設にしてもらいたい。市場調査アイデアには、大学のサテライトオフィス、簡易宿泊所やスタートアップ支援施設、長崎ならではのテーマに取り組む企業等の入居スペース、カフェやキッチンなどを備えたイノベーション拠点などが上がっていたがクロズドな誰かのための場所ではなく、オープンな、人が集える施設にした方がいいと考える。そこに、被爆遺構としての学習もできる部分を持たせてもらいたい。そうすれば、浦上地区に集中しがちな平和関連施設、地区を市内中心部にも広げる事が出来る。市内の人の回遊にも寄与するものになる。これは、長崎市民だけの問題ではなくて、県民みんなの平和に対する想いを残す意味でも、検討をお願いします。私個人は長崎市内で生まれ育ち、故郷ながさきに深い愛情を今でも持っています。それがこんな形でも政策に参加し表すことが出来て、ありがたく思います。よろしくをお願いします。</p>	<p>旧第三別館については、被爆遺構である一方で、耐震性などの課題もあることから、今後、建物のさらに詳細な状況を把握し、安全性や耐久性、利活用ニーズや今後の跡地活用全体における機能分担の整理などを踏まえ、最終的な方向性を整理してまいります。</p>

54	D	<p>旧第三別館を耐震改修した後、長崎御朱印船貿易博物館として活用すべきです。</p> <p>※ご意見の詳細等については、別添2に掲載</p>	<p>県庁舎跡地全体の利活用において、歴史等の情報発信機能を検討しておりますが、博物館までは想定しておりません。旧第三別館については、耐震性などの課題もあることから、今後、建物のさらに詳細な状況を把握し、安全性や耐久性、利活用ニーズや今後の跡地活用全体における機能分担の整理などを踏まえ、最終的な方向性を整理してまいります。</p>
55	C	<ul style="list-style-type: none"> ・旧第三別館と石垣上の情報発信、交流支援施設を「長崎県郷土芸能資料館」にする。江戸町公園または石垣上の広場をお祭り広場にする。 ・上記の施設で、「点：県庁舎跡地」から「線：市町村」の紹介を行い「面：県内観光」に効果がある施設「長崎郷土芸能資料館」と、その芸能を観ることの出来る「お祭り広場」にする。 <p>※ご意見の詳細等については、別添6に掲載</p>	<p>この地の歴史や世界遺産など本県の魅力を伝え、まちなかへの回遊や県内各地への周遊につなげるための情報発信機能を整備していきたいと考えておりますが、資料館的な施設は想定しておりません。広場等について、様々な催しや各種公演などのイベント等にも対応できるよう、引き続き検討してまいります。</p>
56	B	<p>広場には公園、カフェ、歴史を学べる施設、長崎の物産等、お土産屋さんを構える。</p>	<p>カフェ等を併設し、憩いや集いの場となる広場や、この地の歴史や世界遺産、豊富な食や物産など本県の魅力を伝える情報発信機能を整備したいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
57	B	<p>出島周辺の観光地に不足していると思っているのは、伊勢の「おかげ横丁」のような観光客が立ち寄りお土産を買ったり休憩するスペースと思っています。そういった視点も踏まえて、賑わいづくりの空間の検討を進めていただきたいと思ひます。</p>	<p>出島に隣接する石垣下の敷地には、本県の食や物産などの魅力を伝える情報発信機能などを整備し、観光客をはじめ多くの人々が行き交う賑わいの空間を整備していきたいと考えております。民間のノウハウ等も活用しながら、今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
58	B	<p>周辺の施設としては、出島ワーフや美術館もありますので、来訪客が周遊できるような拠点としての機能が図れるよう周辺施設と連携して、賑わいの創出に努めていただきたいと思います。</p>	<p>隣接する出島をはじめ、近隣の施設等との連携に留意しながら、この地の歴史や世界遺産など本県の魅力を伝える情報発信機能を整備し、まちなかへの回遊等につなげていきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>

59	C	<p>年4回は市内でイベントを開き、市内の立地をいかし、簡易的に花火を打ち上げ、観光客を呼び入れる。せっかくの開港の町で海があるのに、これほど花火を打ち上げないのは非常にもったいないと感じる。年4回の花火は、人を外出させ、経済が回る働きをする。また、県外へ大きなアピールとなる。(バレンタイン、こどもの日、港まつり、帆船まつり、クリスマス、ハロウィン、正月その他祝日連休等)</p>	<p>まちなかの中心に位置する場所であり、広場等を設けて、様々な催し等により賑わいを創出していきたいと考えております。石垣下の敷地を含め、花火などのイベント等とどのような連携が考えられるか等について、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>
60	C	<ul style="list-style-type: none"> ・おくんちの根曳(ねびき)や囃子(はやし)の体験をできるようにするのも一興。 ・江戸時代にタイムスリップして勝海舟になりきり、長崎奉行所や海軍伝習所から出島を見下ろし、歴史のロマンを感じ取れるようにしたらどうだろうか。 	<p>この地の歴史や本県の魅力を伝える情報発信機能を整備していきたいと考えております。長崎くんちなどの伝統芸能や本県のゆかりのある人物等をどのような形で紹介できるなど、出島を見渡せるロケーションを活かした情報発信にも留意しながら、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>
61	C	<p>「歴史を感じつつ、幅広い賑わいの交流を促す広場や空間を整備」とのコンセプトについては、賛成。今後の設計の中で、以下の点に留意されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎の基礎をなす、①ポルトガル交易、文化 ②出島でのオランダ交易、文化と奉行所西役所 ③幕末以降の海軍伝習所から造船、上海航路について、観光客に重点を置いて素人にも分かりやすいゲートウェイ的な情報発信を行う。(詳細は、それぞれの施設を訪問するので、ここでは過剰情報は不要) ・本構想では「出島を見渡せるロケーション」を意識した書きぶりとなっているが(それを否定する訳ではない)、長崎発展の根源は「長崎の港」であり、それを体感してもらうには「長崎港(湾)を見渡せる」ことを最重点にすることが適切と考える。ポルトガル、オランダ船の入港、三菱の造船所関連を展望するロケーションを目玉にするべきであろう。現在は農協ビル、出島交流会館などで完全な展望は得られないが、「環長崎港地域アーバンデザインシステム」の思想を拡充して、この高台からのビュー確保(景観確保規制等)を今後の指針に盛り込み、再建築時に規制することで徐々に、「華やかだった時代の長崎港景観」を再現するだけの意気込 	<p>出島を見渡せるロケーションを活かすとともに、いただいたご意見を踏まえ、長崎の港を感じていただくためにどのような工夫等ができるか検討してまいります。また、景観の調和等にも留意し、低層の建築物とすること等により可変性を確保することとしており、広場等のオープンスペースも設けながら、県民市民や観光客もゆったりとくつろげる空間を整備するとともに、この地を訪れる方々に魅力を感じていただけるような機能や設備等についても、さらに検討を深めてまいります。</p>

		<p>みがほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の設計にあたっては、本構想の通り、シンプルかつプレイス可能な簡潔なものとし、「長崎港を見ながら芝生に寝転がることできる」ゆったりとしたエリア造りが望ましい。間違っても、この狭い地域に過剰な施設を詰め込むことだけは避けてほしい。長崎独特の「風」「香」「音」等が、観光客一人一人の思い出になるような「シンボル」的なモニュメント、あるいは自らがパフォーマンスを出来るような小さな工夫は是非検討してほしい。 <p>※具体例については、別添4に掲載</p>	
62	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「賑わい」と「交流」に資する機能を効果的に配置。 ・アクセスは、路面電車とは直結せず、バスのみで不便である。 ・海が見える絶景の地は魅力があるので、県外からの駐車場と観光バス乗降場所を確保し長崎観光の出発点とする。 	<p>バスベイや待合所、情報発信機能などを整備し、人々が行き交う賑わいの空間を整備したいと考えております。どのような機能やサービスが付加できるか、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>
63	C	<p>この地を長崎観光の拠点に、明治産業遺産、長崎教会群の遺産、平和祈念、丸山花月、中華街、出島、夜景の稲佐山等のコースを設定し、電車、バス、徒歩の出発地の拠点とする施設を造る。</p>	<p>訪れた観光客等をまちなかへの回遊や県内の周遊に誘うような情報発信機能を整備したいと考えております。どのような仕掛けが考えられるか等について、今後、さらに検討を深めてまいります。</p>
64	C	<p>バスベイ、待合所のスペースについては、単なる停留所というものでなく、長い歴史に育まれた「出島」を目指して来る県内ならびに他県、ひいては他国の観光客のためにも、せめて、雨露を凌ぐ屋根、それから「手ぶら」で観光するために荷物を預けることが出来るコインロッカー、加えて観光案内所を設置し、市内、県内周遊の手助けとなる施設を作る必要があると思われる。</p>	<p>バスベイや待合所などを整備し、人々が行き交う賑わいの空間を整備したいと考えております。どのような機能や配置が好ましいか、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>

65	C	<p>近年の旅行スタイルは「食べる・観る」から「体験型」へとシフトしつつある。</p> <p>県外の方が長崎と聞いてイメージするものとして「おくんち、ちゃんぼん、カステラ」が思い浮かぶのではないだろうか。そこで、県庁跡地に上記3つのミュージアムをつくるのはどうか。特におくんちの演し物の間近で写真を撮影したり、可能であれば実際に演し物を披露する踊り馬場を設け、終了後には演し物に触れたりできるとなお喜ばれるのではないだろうか。ちゃんぼん、カステラについては製造体験ができる施設を検討してみる価値はあると思う。</p>	<p>訪れた観光客等をまちなかへの回遊や県内への周遊に誘う起点となるような、観光・物産・食など本県の魅力を伝える情報発信機能を整備していきたいと考えておりますが、ミュージアムのような規模の施設までは想定しておりません。ご意見にありますように、近年は体験型観光が主流となってきており、本県の魅力を体感いただけるような情報発信のあり方について検討を重ねてまいります。</p>
66	C	<ul style="list-style-type: none"> ・1.金沢市 東山 ひがし茶屋街 2.熊本 熊本城桜の馬場、城彩苑 3.江戸ワンダーランド 日光江戸村 ここで熊本の城彩苑を調べてみると、城及び城彩苑で平成29年(2017)275万人の来場で725億円の売り上げ、平成30年(2018)281万人来場で735億円の売り上げを記録している。城彩苑だけでも平成29年119万人、平成30年105万人訪れている。駐車場としてバス47台、乗用車663台分を準備している。 ・やはり、これ程の人数と売り上げを上げるにはインフラとして駐車場の整備は不可欠でありましょう。2016年の熊本地震以後だと考えると素晴らしい回復力です。そう考えると県警本部跡地は駐車場並びに施設のための事務機能、倉庫機能、或いは長崎県物産館等併設するような建物が妥当でないかと思われる。 	<p>賑わいと交流に資する機能を効果的に配置するとの基本的考え方のもと、県庁舎跡地には、出島との連携等にも留意し、観光客等による賑わいを創出する機能を、県警本部跡地には、民間開発を基本に、オープンイノベーション等を推進する機能を整備していきたいと考えております。駐車場の確保について、広場等の一部を使用することなどを含め検討を重ねており、今後、さらに精査してまいります。</p>
67	B	<ul style="list-style-type: none"> ・広場で子供を遊ばせるのに、年齢別のゾーン分けがされていると良い。 ・全天候型で屋根があると良い。 ・おくんちの川船などを模したスプリング遊具や滑り台、龍踊りを模したターザン、コッコデショの担ぎ物を模したシーソーなどの、長崎の文化、お祭りに特化した遊具を設置すると、他の公園の遊具とのすみわけができて楽しそう。遊びに行きたいと思える。 	<p>子供が遊べる場所にしてほしいというご意見については、基本構想素案の「5.機能や配置の考え方」「6.具体的機能や配置」に盛り込んでいる、家族連れ等に配慮した機能や設備等を整備するとの考え方や姿勢に合致しております。いただいたご意見を参考にさせていただき、今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>

68	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家で子供にさせてあげられないような体験型のワークショップをして欲しい。ぬり絵遊び、陶器づくりや染物体験など。 ・後継者が不足している伝統工芸などの体験を通じて、県内外に長崎の文化を発信できると思う。 	<p>様々なワークショップの開催や、多様な人材や文化、知識、技術等に接することができる場として、多目的交流スペースや研修・講義スペースなどの交流支援機能を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
69	B	<p>広場には小さい子供が遊べる遊具を設置してほしい。</p>	<p>小さい子供をはじめ、家族連れにも配慮しながら、広場等を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
70	B	<p>広場の整備には賛成ですが、スケボーなどで遊べるような場所にしてほしい。</p>	<p>若者等が気軽に集い、交流できる場所にしていきたいと考えております。特定のスポーツのための整備は念頭にありませんが、安全面などにも留意しながら、今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
71	B	<p>小さいライブをできるような場所がほしい。</p>	<p>イベントや催しに対応できる広場や、いろいろな発表や表現の場として利用できるプレゼンテーションスペースなどを整備したいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
72	B	<p>広場については、多様な催しが可能となるように、電気、水等の確保及び処理、照明、放送設備等の整備をしていただきたい。</p>	<p>広場については、多様なイベントや催しに対応できるように、電源や給排水設備、照明等の整備などに留意してまいりたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
73	B	<p>老人の施設が閉鎖的なので、老人が楽しめる集いの場所が欲しい。</p>	<p>訪れる方々がゆっくりとくつろげるような空間や、多様な人材や文化、知識などに接することができる交流支援機能を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
74	B	<p>地元民も利用できる朝市、おくんち・精霊船演舞広場がベスト。</p>	<p>県民市民による日常的な賑わいを中心としながら、観光客等も引き込まれるような空間にしていきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>

75	B	<p>・広場はイベントで使われやすいように、全面芝生ではないほうがいいです。</p> <p>・長崎の歴史がわかるようなブースが常設であると、観光客だけでなく多くの県民も訪れるようになると思います。</p>	<p>広場については、芝生等や石畳の舗装等を検討したいと考えております。また、情報発信については、県民市民をはじめ訪れる方々に、この地の歴史や世界遺産など本県の魅力を体感いただけるよう工夫していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
76	B	<p>石垣は夜間ライトアップをするなど、長崎の夜景のひとつとして楽しめるようなスポットになるよう整備していただきたいです。</p>	<p>現存する石垣等を活かし、この地が岬の先端であったことをほうふつさせるとともに、石垣下に生まれる空間等を有効に活用し、隣接する出島とも連携して賑わいの空間を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
77	A	<p>県民が主催するイベント等が気軽に開催でき来県者との交流も促進されるよう、県民が賑わいづくりに主体的にかかわれる運営の仕組みづくりをぜひお願いします。</p>	<p>県民市民を中心としたイベントや催しが日常的に開催され、観光客等との交流が促進されていくような場所を目指し、効果的な機能整備や運営体制の構築を図っていきたくと考えております。いただいたご意見を踏まえ、県民の皆様等が賑わいづくりに主体的に関わることのできる運営の仕組みづくりについて、基本構想の中に、より分かりやすく盛り込むことといたします。</p>
78	C	<p>散歩などで通るときに、四季折々の花を見ることができると嬉しい。</p>	<p>樹木を植えるなど、県民市民などが気軽にくつろげる空間を整備したいと考えており、植栽のあり方等について、今後、さらに検討を深めてまいります。</p>
79	C	<p>長崎は猫が多いと有名な割に殺処分がワーストで、平和を訴える割に命を大切にしているイメージがない暗いイメージがあるので、猫カフェと里親譲渡会や動物愛護の訴えを出来る明るいスペースが欲しいです。</p>	<p>広場等にカフェを併設すること等を検討しており、どのようなカフェやその利用等が考えられるか、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>
80	C	<p>浜の町周辺でランチや買い物、美容室、病院等へ行くときに、短時間でいいので、施設で子供を預かってもらえると助かる。楽しいキッズスペースを設置し、保育士さんを配置して1時間単位で料金制にすると使いやすいと思う。</p>	<p>家族連れにも配慮した機能や設備について留意していきたいと考えております。どのような対応が考えられるか、今後、さらに検討を重ねてまいります。</p>

81	B	<p>長崎は当時としては珍しく、江戸時代から明治・大正時代にかけての街中の写真資料が比較的豊富に残されているので、そういった資料をまとめて見物できる機能や施設を設けて頂きたい。(例えば、原爆で全焼した旧長崎県庁舎などを県庁舎の存在したその場で写真で見て、想像するという体験などができると面白いのではないか。)</p>	<p>この地の重層的な歴史などを訪れる方々にわかりやすく伝えることができるような情報発信機能を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
82	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県庁舎跡地は、鎖国時代に唯一海外に開かれた日本の窓口であった長崎を体感できる場所にしていただきたいと思います。 ・VRを活用し、長崎奉行所から見える眼下の出島で働く人や、港に出入りする外国船の大きさ、乗組員の様子、町を行き交う商人、女性、子供の様子、唐人屋敷との距離感などを擬似体験することで、当時に思いを馳せ、長崎を、日本を、世界を考える場所としていただきたいと思います。 	<p>VR（仮想現実）などの先端技術等を活用し、この地の様々な歴史などを効果的に体感してもらえるような情報発信機能を整備していきたいと考えております。今後、具体的な機能等を検討していく中で、詳細等を精査してまいります。</p>
83	C	<ul style="list-style-type: none"> ・おくんちの歴史など見れる施設があると良い。 ・誕生日などには、家族含めて入場料を無料にして欲しい。無料じゃないと行こうとは思わない。 	<p>この地の歴史や本県の魅力を伝える情報発信機能を整備していきたいと考えております。長崎くんちなど県内の伝統芸能をどのような形で紹介できるかなど、民間ノウハウを活用した運営体制等にも留意しながら、今後、さらに検討を深めてまいります。</p>
84	C	<p>視覚障害者は聴覚や触覚で体験することができるので、広場に設置する建物には、自然を感じられるような小鳥のさえずりを流したり、室内に川が流れてせせらぎの音を楽しめるようにするのもいいと思う。また、例えば出島や長崎奉行所西役所を復元した模型を直接手で触れるような展示を設置してほしい。もちろん、歴史を耳で知ることができるように、歴史のナレーションを聞けるようにしてほしい。</p>	<p>広場に樹木等を植えること等により、木の葉がそよぐ音などを聞いたりして県民市民等が気軽にくつろげるような空間を整備していきたいと考えております。また、訪れる方々にこの地の歴史等を体感していただけるような情報発信機能を整備していきたいと考えており、視覚障害をお持ちの方々にも配慮しながら、今後、具体的な機能等について、さらに検討を重ねてまいります。</p>

85	C	<p>かつてローマの町のようにと宣教師が報告した 1620 年ころの長崎の街の模型を置き、エキゾチックな長崎の街の姿を紹介しては如何でしょうか？他にもローマへ行った 4 人の少年使節の資料など展示しても意義あるでしょう。江戸時代の踏み絵の様子や海軍伝習所、医学伝習所の資料も展示したいものです。コロナの時代、幕末長崎から広まったコレラのことや天然痘のことなどの資料展示も良いでしょう。</p> <p>※ご意見の詳細等については、別添 2 に掲載</p>	<p>長崎開港当時など、この地の様々な歴史の変遷をしっかりと伝えていきたいと考えております。先端技術なども活用しながら、発信する内容等を含め、今後、さらに検討を深めてまいります。</p>
86	C	<p>最初の頃の長崎の街を再現する。勿論確かな資料が残されていないので発掘された物と南蛮屏風で判断するしかないのかもしれないが、花十字紋の瓦をのせた花頭窓の街並みを再現し、それぞれの家の中で土産品や特産品を販売する。カステラ、銀細工、ビードロ、鼈甲などなど、、、。或いはコーヒーや彼杵茶などを飲ませる。ポルトガル菓子、エッグタルトの専門店、？</p> <p>※ご意見の詳細等については、別添 2 に掲載</p>	<p>長崎開港当時を含め、この地の様々な歴史の変遷や本県の魅力を伝える情報発信機能などを整備していくこととしております。訪れる方々に歴史や魅力などを体感していただくため、どのような工夫等ができるか等について、今後、さらに検討を深めてまいります。</p>
87	D	<ul style="list-style-type: none"> ・年一回 7ヶ町の奉納演し物 ・長崎以外の人々には中々其の感激を味わえない。長崎来訪の旅人にも感激を提供する。つまり、「おくんち会館」で常設の演し物とする。 <p>※ご意見の詳細等については、別添 5 に掲載</p>	<p>この地の様々な歴史の変遷や世界遺産など本県の魅力を伝える中で、VR（仮想現実）などの先端技術も活用しながら、長崎くんちについても発信していきたいと考えておりますが、ご提案のあった「おくんち会館」的な施設の整備は想定しておりません。</p>
88	C	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね賛成だが、加えれば、平和希求の精神、被爆の視点が必要。建築学的な視点もこの際重要。（築城土木技術の観点からも） ・原爆投下によって消失したルネッサンス様式レンガ造り三階建ての旧庁舎は、建築家山田七五郎氏の設計。被爆地から 3.3 キロの旧庁舎は昭和 20 年 8 月 9 日正午過ぎ、本館頂上のドーム付近から出火、原爆による大規模な二次火災となり、約 30 町を全焼した。原爆熱線の威力を証明する貴重な被爆遺構であった。 <p>この際、「交流支援機能」を持つ建物として、外観だけでも山田氏設計の三階建て旧庁舎の復元を望みたい。被爆遺構復元こそ平和を求める市民、県民の願いと思う。</p>	<p>重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建築物等の復元は難しいと考えております。旧第三別館については、被爆遺構である一方で、耐震性などの課題もあることから、今後、建物のさらに詳細な状況を把握し、安全性や耐久性、利活用ニーズや今後の跡地活用全体における機能分担の整理などを踏まえ、最終的な方向性を整理してまいります。</p>

89	C	<p>県庁舎跡地は、長崎奉行所西役所のあった場所。徳川幕府の唯一の外交舞台として知られる。西役所の完全復元は無理としても、博物館のような一部復元を求めたい。</p>	<p>重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建築物等の復元は難しいと考えております。博物館的なものまでは想定しておりませんが、長崎奉行所西役所が外交の舞台となったことなど、この地の様々な歴史等をしっかりと伝える情報発信機能について引き続き検討してまいります。</p>
90	C	<p>同地には「岬の教会」があり、その後日本のキリシタンの中心としての機能を果たした。長崎市は天正遣欧少年使節、島原の乱、宗教弾圧、信徒発見、世界遺産と続く宗教都市でもある。宗教の聖地としてモニュメントを建てる意義はある。 過去、現在、未来と結ぶ「長崎歴史の丘公園」にしてもらいたい。</p>	<p>この地の重層的な歴史等をしっかりと伝えるべく具体的内容等をさらに精査していきたいと考えておりますが、宗教の聖地としてのモニュメントなどの設置は難しいと考えております。歴史をつむぎ、未来につながるような、この地にふさわしい、センスのよいたたずまいやデザインを備えた広場等の整備について検討を重ねてまいります。</p>
91	C	<p>岬の教会、森崎宮、六ヶ町の街並み、長崎奉行所西役所を再現して日本中に二つとない長崎の観光施設とし新たな観光客を呼び込むことは長崎観光の目玉になることは必至です。 ※ご意見の詳細等については、別添2に掲載</p>	<p>様々な歴史の変遷や世界遺産などの本県の魅力を伝える情報発信機能については、VR（仮想現実）など先端技術を活用して再現することなどを含め検討しております。多くの観光客等に訪れていただき、まちなかへの周遊や県内各地への回遊につながるよう努めてまいります。</p>
92	C	<p>海軍伝習所時代を再現した体験館と当時の料理や長崎の魚・肉・酒が堪能でき海を見ながらの飲食店街。</p>	<p>重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建築物等の復元は難しいと考えております。様々な歴史の変遷や本県の食や物産などの魅力を伝える情報発信機能について、観光客等のまちなかへの周遊や県内各地への回遊につながるよう、引き続き検討してまいります。</p>
93	C	<p>長崎歴史公園とした岬の教会や西奉行所等を復元し、VRを利用して長崎港や長崎市街を見ると往時の様子が復元できるようにする。施設内は、長崎の春夏秋冬の祭り等の行事を市民の手作りで紹介する。</p>	<p>重層的な歴史を踏まえた活用を検討しており、特定の時代の建築物等の復元は難しいと考えております。ご意見にあるような、VR（仮想現実）等の先端技術も活用しながら、県庁舎跡地の様々な歴史や世界遺産、伝統芸能など本県の魅力を伝える情報発信機能について、引き続き検討してまいります。</p>

< 7.事業の進め方（4件） >

No.	区分	意見要旨	意見に対する考え方
94	B	<p>本事業は幾つかの機能を組み合わせた複合的の事業という側面を有しており、民間事業者を含めた体制づくりや事業全体のコーディネートを誰がどのように担っていくのが重要だと思います。従来型の指定管理者制度や、個別の民間開発事業といった枠にとらわれてしまうと、どうしても複合的かつ長期的な視点に立った地域経営には限界が生じてしまうと考えられます。具体的にどのように解決するのか難しい所ですが、是非、個々の機能を別々に管理運営するのではなく、複合的な視点に立った地域経営ができるような体制づくりに期待したいと考えています。</p>	<p>民間事業者を含めた体制づくりや事業全体のコーディネートなどの管理運営に関し、複合的な視点に立って地域経営することについては、県庁舎跡地の利活用において重要な視点であると考えており、基本構想素案の「7. 事業の進め方」に、施設全体を一貫したコンセプトの下で統轄する総合プロデューサーなどの核となる人材を配置することなど、民間ノウハウを活用した効果的な運営体制等について盛り込んでおります。今後、先進的な全国の施設整備・運営事例等も参考に、民間事業者等へのヒアリング等を実施しながら、実現可能な事業スキームや、効果的な整備・運営手法等について精査してまいります。</p>
95	C	<p>教会、奉行所、朱印船博物館は入場料をとる、各々の店は家賃をとる。長崎県はこの施設の全てをデベロッパーへ委託して月毎の料金をもらう。デベロッパーは入場料収入とテナントの家賃で収益をあげ、施設の宣伝、広告、管理費にあてる。長崎県はデベロッパーへ貸与することで初期投資を回収し維持管理費を抽出する。 ※ご意見の詳細等については、別添2に掲載</p>	<p>民間のノウハウを最大限活用した効果的な運営や事業手法について検討を重ねております。引き続き、指定管理等の先進事例なども参考としながら、さらに整理を進めてまいります。</p>
96	D	<p>県警本部跡地との機能連携も有用な方向性だと思いますが、財源策として県警本部跡地の譲渡益を県庁舎跡地活用に充当すること等も含め、県庁舎跡地活用の更なる充実化を期待致します。</p>	<p>財源面にも十分留意した利活用策を検討していきたいと考えております。県警本部跡地の敷地の譲渡は現時点で想定しておりませんが、民間開発を基本に、収益性にも考慮し、企業向けオフィス等と併せたオープンイノベーション拠点の整備について、国の補助金をはじめとした有利な財源措置の活用と併せて検討してまいります。</p>

97	B	<p>県庁舎跡地は、長崎のまちの中心に位置し、交流、賑わい、交通の拠点として長崎を象徴する場となるポテンシャルを備えており、その機能、空間活用のあり方が、将来のまちの活性化に大きな影響を与えるものと思います。広場を中心とした低利用を想定し、施設等の整備事業費を20～30億円と試算されていますが、広場を備え、景観を損なわない低層施設としながらも、可能な限り都市機能や観光機能の充実を図った施設計画が望ましいのではないかと思います。</p>	<p>建物については復元が進む出島に隣接することなどから、景観等を損なわない低層施設としつつも、可能な限り都市機能や観光機能の充実を図った施設計画が望ましいとのご意見については、県庁舎跡地の利活用において重要な視点であると考えております。今後、エリア全体の人の流れやまちづくりの動き等を踏まえ、まちなか等への回遊や県内周遊つなげること等に留意しながら、具体的な機能等を精査してまいります。</p>
----	---	---	--

< 8.今後の進め方（1件） >

No.	区分	意見要旨	意見に対する考え方
98	B	<p>どのような整備がなされるにしても、その前に「持続可能な運営体制」を前提にして造ることが大事だと思います。</p> <p>ただし、時代の変化がますます早くなることも予想されるので、この運営体制も「可変的であること」が求められると思います。</p> <p>このように考えると、早急に何かを造って行き詰るより、この地の歴史の理解のためにも立ち止まってじっくり考える時期だと思います。そうした上で、遺跡や文献等の何かを闇雲に復元して歴史を止めたお墓のような空間ではなく、未来に向かって歴史を引き継ぐ前向きで明るい整備とすべきだと考えます。</p>	<p>時代の変化等にも対応しつつ、持続的な運営等につなげるため、広場等を暫定供用して、利用状況を検証のうえ、その後の整備等を検討していくなど、段階的な整備を推進することとしております。また、利活用の基本的考え方として、この地の歴史等をしっかり伝えるとともに、この地が歴史上果たしてきた役割等を踏まえ、本県の将来の発展に資するような新たな価値を創造する場所にしていきたいと考えております。今後、具体的な機能等の検討をしていく中で、詳細等を精査してまいります。</p>